

教えて考えさせる授業

受容学習と問題解決学習の接合

市川伸一（東京大学教育学研究科）

第2次学力低下論争？

1998年指導要領改訂時の「学力低下」論争

1999年春から2002年春まで

論争の2つの軸

学力低下の軸： 学力は本当に低下したのか：

改革路線の軸： 90年代型「教育改革」を支持するか

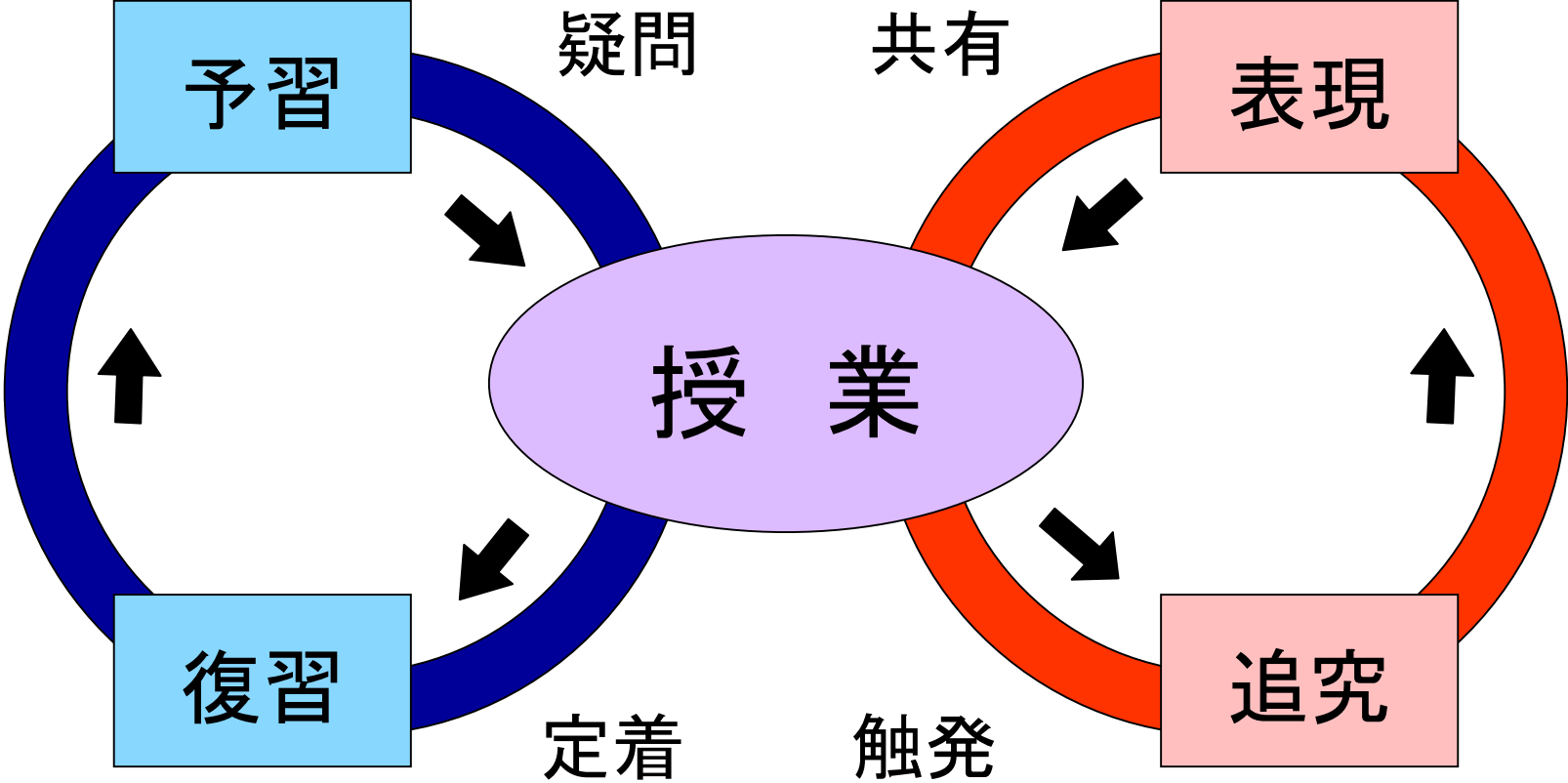
PISA2003、TIMSS2003の結果による構図の変化

「学力低下傾向」の事実化

伝統的教育の復活？

授業日・時間数、学習指導要領、反復徹底、受験競争

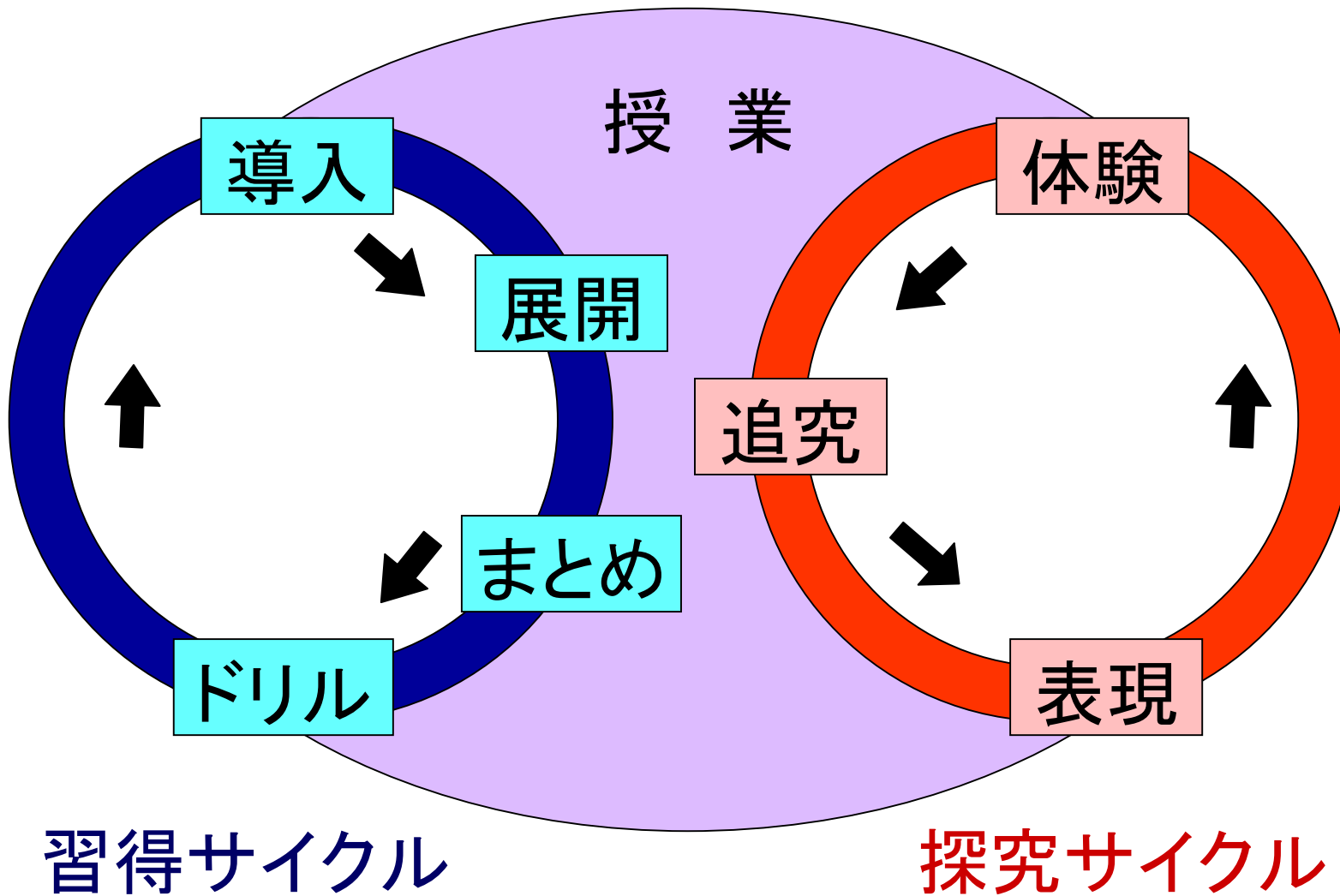
学習の2サイクルのバランスとリンク



習得サイクル

探究サイクル

低学年型のモデル



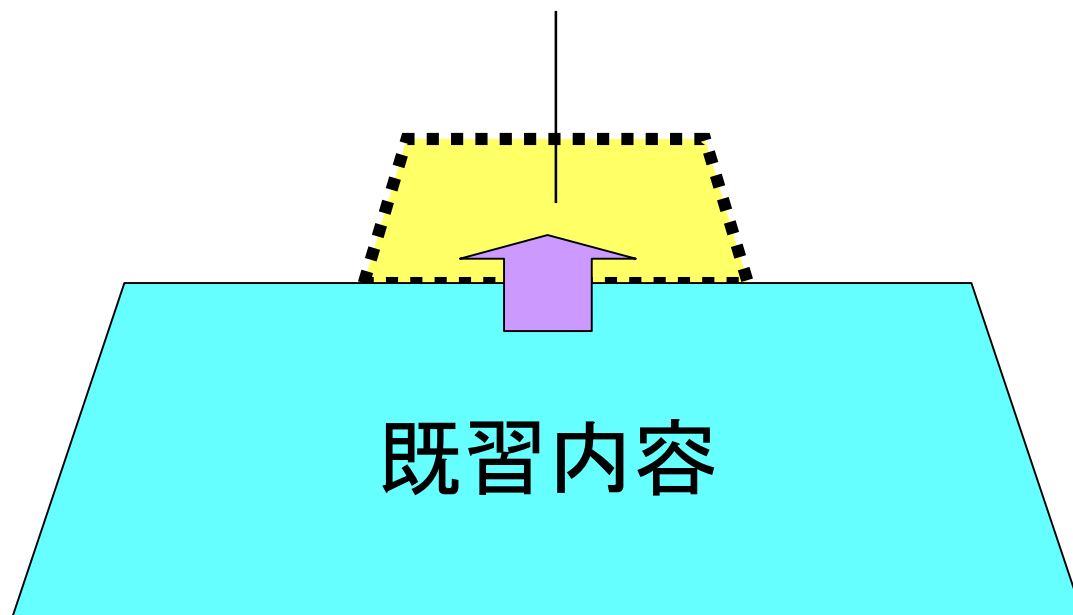
基礎学力はどう保障するのか

授業時間数が減っても基礎学力を落とさない方法

- 教えて考えさせる授業
- 家庭学習を含めた学習スキルの育成
 - 学力・学習力診断テスト“COMPASS”
 - 学習法講座 → 予習・復習の習慣と方法
- 授業外の学習支援システムの充実
 - 学習相談室
 - 自治体による補充・発展学習ゼミナール

教えずに考えさせる授業

新しい学習事項



授業の流れ

問題提示
自力(協同)解決
確認(まとめ)
ドリルまたは発展

「教えずに考えさせる授業」の問題点

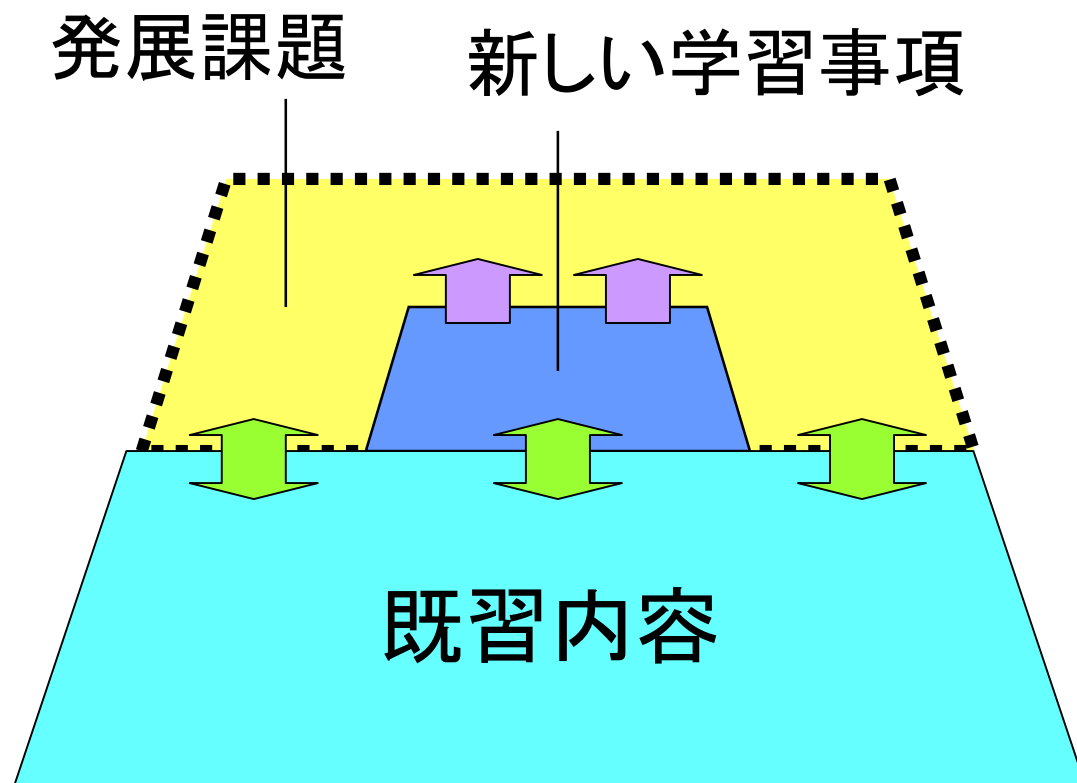
- 先取り学習をしている子、すぐに解がわかった子にとっては、非常に退屈
- 学力の低い子は、自力解決もできず、討論にもついていけない

問題解決学習をめざしているのに問題解決学習にならない

- 教師がていねいに説明する時間がなくなる

基本的事項すら理解できない子どもを大量に生み出す

教えて考えさせる授業



授業の流れ

教師からの説明
理解の確認
発展課題
自己評価活動

「教えて考えさせる授業」への誤解

- 「問題解決学習を否定するのか」
- 「教え込み、詰め込みを奨励するのか」
- 「教えて、考えさせればこの授業になるのか」

重要なポイント

「未習だが教科書に出ている内容」を教えるのが原則
教えたあとには、理解確認課題をていねいに
説明活動、教えあい、小テストなど
問題解決や討論は、基礎知識を共有してから
授業後に、内省、質問を促す工夫
やがて、最初の「教える」の部分を予習活動に移行

学習法講座：英単語学習法を探る

対象：中3～高2（東京大学附属中等教育学校）

実施時期：2000年8月（1日約90分、4回）

市販の単語集（旺文社「ターゲットシリーズ」の1400／1100）

単語の記憶方略（対連合学習 vs 関連づけ方略）

苦手単語集中法の体験

分類作業を通じての記憶法の経験

動詞の活用型による分類／動詞から名詞への派生語

いろいろな英単語記憶法の紹介

関連づけ法／構成要素法／英語交じり日本文／etc.

学習ゼミナール：教えることを通して学ぶ

対象：中2（文京区でDMにより公募）

実施時期：2001年8月（1日約50分、全18時間中4時間）

単元：順列と組合せ

「人に教えるつもりで説明する」ことの意味

わかっていない箇所の発見／コミュニケーション力

「テキストや授業の解説がわからない」という状態をつくる

小グループでの教え合い／アシスタントからの指導

小学生にもわかるような表現で説明

応用問題の解説：あとから見てわかるようなメモを残す

まとめの問題：組合せの求め方の意味的理解

参考図書紹介

これからの教育のあり方

学ぶ意欲とスキルを育てる—今求められる学力向上策—（小学館）

開かれた学びへの出発—21世紀の学校の役割—（金子書房）

学力低下論争（ちくま新書）

学力から人間力へ（市川編、教育出版）

認知カウンセリング

学習を支える認知カウンセリング

認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導

（上記2冊とも、市川編、ブレーン出版）

心理学から見た学習のしくみとスキル（中学・高校生向け）

心理学から学習をみなおす（岩波高校生セミナー）

勉強法が変わる本—心理学からのアドバイス—（岩波ジュニア新書）